

14:00-14:50 角野浩史先生（東京大学）

「高感度希ガス質量分析を利用した極微量ハロゲン分析：新しい研究手法を自分のものにするには」

15:00-15:50 桑谷立先生（JAMSTEC）

「地球化学とデータサイエンス」

15:50-16:40 ロバートジェンキンス先生（金沢大学）

「竜骨群集と鯨骨群集の世界：海棲脊椎動物遺骸に形成される生物群集」

若手研究者や学生に向けて貴重なお話をしてくださった講師の先生，そして参加者の皆様に運営委員一同，心よりお礼申し上げます。また，ショートコース開催に伴い日本地球化学会理事の方々，2022年度日本地球化学会第69回年会事務局の方々にご協力いただきました。ここに記して感謝の意を表します。

会計報告

収入は参加費のみである。日本地球化学会会員の参加費は無料，非会員の参加費は1,000円とし，参加費収入は6,000円であった。支出は講演料1名あたり7,000円，1名辞退され3名分（21,000円）とoVice使用料（Conference単発利用プラン，11,000円）である。

収入			
項目	数量	単価(円)	小計(円)
参加費	6	6,000	6,000
計			6,000

支出			
項目	数量	単価(円)	小計(円)
講演料	3	7,000	21,000
oVice使用料	1	11,000	11,000
		計	32,000

2022年 日本地球化学会 ショートコース運営委員会
板野敬太（秋田大）・伊藤 茜（関西学院大・九州大）・
鹿児島渉悟（富山大）・窪田 薫（JAMSTEC）・八田
真理子（JAMSTEC）・日比谷由紀（東京大）・福山繭子
（秋田大）・山田明憲（豊島電気）（五十音順）

（企画幹事 福山繭子）



書評



『気候変動と「日本人」20万年史』

川幡穂高（著）

岩波書店（2022年4月発刊）

全227ページ，価格2,200円

本書は，本会の元会長でもある川幡穂高会員（現早稲田大学理工学術院 客員教授）が，様々な科学分析を駆使して，過去の気候変動を調査研究し，日本人のルーツから現代までの約20万年間の歴史をまとめた書籍である。著者は，理学部化学科のご出身で約40年以上に渡り，地球化学や地球惑星科学を探求されてきた。独自の視点と科学データに基づいて，考古学や歴史学へ切り込む，その断面が新鮮である。章立ては，以下の通りである。

序章 気候・環境変動と社会

～寒冷期の影響

第1章 究極の故郷はアフリカの大地

～ヒトの誕生から「出アフリカ」へ

第2章 はるかなる大地を行く

～ユーラリア大陸横断

第3章 縄文社会の出現

～「縄文杉」は「弥生杉」

第4章 三内丸山の繁栄と縄文社会

～恵まれた食生活から環境劣化へ

第5章 現代日本人の遺伝子の故郷

～古代中国の大地

第6章 水稲栽培伝来と弥生人
～日本米の意外な故郷

第7章 中国の勢力拡大と日本社会
～紀元前5世紀からの寒冷気候

第8章 温暖・湿潤環境が育む倭国
～古墳造営と環境変化

第9章 繰り返す温暖化と寒冷化
～飛鳥時代から江戸時代へ

終章 気候が時代を変革する。

引き込まれた読後には、世界の考古学・歴史学のフィールドを一巡したような気分になる。地球化学ツールの応用として、アルケノン分子指標から復元した古海水温と歴史イベントの対比は、ピタリと合致し、とても興味深い。体系立てて定性的かつ定量的に分かりやすく構成されており、研究室のメンバーや国内外の共同研究グループとの精力的な調査活動の賜物であると結語されている。大学や大学院での講義の副読本、あるいは、地域学習の教材としても相応しい内容である。巻末のレファレンスも充実している。

コラムのほか、所々に目を引くトリビアがおかれている。例えば、美食と人類の進化、「出エジプト」を共にした病原菌、水稲栽培の起源、「商人」の誕生、三内丸山遺跡の天才縄文人、日本最古のロマンチック

な言葉、下戸と酒飲み、平城京の重金属汚染、モンゴル帝国の隆盛と最適気候、等等。いずれも筆致がやわらかく、読み応えがある。

同著者による東京大学最終講義のダイジェストは、こちらからご覧頂くことができる（講義：川幡穂高教授、演題『ホモ・サピエンスが誕生し、興隆する地球という星』、場所：大気海洋研究所講堂、YouTubeライブ配信ダイジェスト）。

<https://youtu.be/C7STcQGDF30>



少し話しがそれるが、「鬼平犯科帳」や「剣客商売」等で知られる文豪・池波正太郎の歴史小説では、各エピソードの一コマに質素で鮮やかな日本食が、しばしば登場する。例えば、江戸時代の界限において、季節の旬の素材と料理作法の一手間を加えた美食の描写の数々。文章の切れ味とともに、ライフワークとしての「味覚の探究」を優しく織り込むという意味で、両著者には相通じるものがある。

(海洋研究開発機構 高野淑識)

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会、書評、研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上、電子メールでの原稿を歓迎いたしますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2022年12月頃を予定しています。ニュース原稿は11月中旬までにお送りいただくよう、お願いいたします。また、ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会）

中川書子
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻
Tel: 052-789-3464; Fax: 052-789-3436
E-mail: news-hp@geochem.jp

角野浩史
〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学先端科学技術研究センター
Tel: 03-5452-5096; Fax: 03-5452-5096
E-mail: news-hp@geochem.jp



日本地球化学会ニュース

No. 250 September 2022

Contents

学会からのお知らせ	2
●日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2022年大会報告	
●Goldschmidt国際会議 2022 報告	
●第17回日本地球化学会ショートコース開催報告	
書評	5
気候変動と「日本人」20万年史	